

令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人かすがい市民文化財団	
施 設 名	春日井市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	4,088	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	2,545	(千円)
普及啓発事業	1,543	(千円)

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	若手音楽家支援事業	2021年7月6日	FUN、Trio Enchant、Jumble Quartet、 ASTER	目標値	600
		視聴覚ホール		実績値	13
2	演劇×自分史 カスガイ 創造プロジェクト	※	新型コロナウイルス感染症の影響に より全活動中止。	目標値	参加者 120
				実績値	0
3	吹奏楽部員のためのコン サート	2021年5月23日※ (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響に より中止。	目標値	420
		春日井市民会館		実績値	0
4	Osaka Shion Wind Orchestra 吹奏楽ワーク ショップ	2022年1月16日※ (延期後の日程)	Osaka Shion Wind Orchestra 団員	目標値	150
		春日井市民会館		実績値	64
5	高橋多佳子のピアノ・レッ スン	2021年8月16日	講師：高橋多佳子	目標値	20
		春日井市東部市民セン ター		実績値	10

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	昼コン&夜コン&親子のためのはじめての音楽会	2021年4月10日、ほか※	出演：瀬木理央（ヴァイオリン）、酒泉啓（チェロ）、金澤みなつ（ピアノ） ほか	目標値	2,200
		交流アトリウム、ほか		実績値	2,108
2	かすがい どこでも アート・ドア	2021年7月21日、ほか※	出演：馬場淳史、ほか	目標値	1,500
		坂下南保育園、ほか		実績値	2,578
3	かすがい文化フェスティバル	2021年7月25日、 2021年8月25日	出演：Trio Primavera スタッフ：かすがい市民文化財団職員	目標値	200（※ 実演芸術分野参加者のみ）
		文化フォーラム春日井、春日井市民会館		実績値	134
4	生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 ピアノ版	2021年8月14日、15日	出演：高橋多佳子（ピアノ） 曲目：ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ第8番ハ短調作品13 悲愴より第2楽章 ほか	目標値	400
		春日井市東部市民センター		実績値	426

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>今年度も【人材養成事業】【普及啓発事業】共に、新型コロナウイルス感染拡大の大きな影響を受けた。特に【人材養成事業】の「演劇×自分史 カスガイ創造プロジェクト」は昨年度に引き続き、計画自体が立てられず、事業自体が中止となってしまった。また、「吹奏楽部員のためのコンサート」も中止に。せめてワークショップだけでも、と日程を延期して行った「Osaka Shion Wind Orchestra 吹奏楽ワークショップ」も、開催は出来たものの、感染拡大の影響で、当初の申し込みの半数しか参加できなくなった。</p> <p>【普及啓発事業】では、「昼コン&夜コン&親子のためのはじめての音楽会」も、感染拡大の影響を受け、3公演が中止、3公演が延期となった。「かすがいどこでもアート・ドア」も中止や延期が相次いだ。その他開催ができた公演も、入場者数・客席数を制限するなど、感染防止対策を行うこととなった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>文化的意義について：</p> <p>助成いただいた中の事業で、「生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会」は当財団が制作を行い、全国で公演を行っている企画である。人気漫画を切り口とすることで、初めてクラシック音楽を聴く、という若い世代やファミリーが来場しやすい公演として、幅広く支持されている。15年間で16万人以上を動員している。</p> <p>社会的意義について：</p> <p>「昼コン&夜コン」は18年継続しており、交流アトリウムという、誰でも気軽に立ち寄れる空間には、乳幼児連れの親子から、施設内にある図書館帰りの学生、年配の方まで幅広い客層の様々な人々が訪れる。近隣の老人介護施設から車椅子で来館される利用者もいて、バリアフリーで楽しめるコンサートとして認知されている。</p> <p>「親子のためのはじめての音楽会」も乳幼児がいるファミリー層のニーズに応えたものである。生演奏のクラシック音楽を、周囲に気兼ねすることなく聴くことができる企画として、大変喜ばれている。</p> <p>「かすがいどこでもアート・ドア」は、劇場に足を運ぶことが難しい障害者支援施設や、保育園・幼稚園、教育現場へ芸術を届ける活動である。春日井市在住のアーティストが中心で、地元に対し自分たちの活動で貢献したいという強い思いがあり、双方にとってwin-winの関係が築かれる社会的意義が高い事業として根付いている。</p> <p>経済的意義について：</p> <p>「昼コン&夜コン&親子のためのはじめての音楽会」への市民の寄付金が昨年に続き28万円を超えた。“無料”のコンサートへの寄付文化が根付き、更に芸術文化への支援の気持ちが高まっていることを感ずる結果となっている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【人材養成事業】では、新型コロナウイルス感染拡大により、事業が中止になったり、参加者数が大幅に減ったりして、人数に対する目標は未達成のものが多くなってしまった。しかしながら実施してきた事業については参加者の満足度は100%となり、目標を達成した。

「Osaka Shion Wind Orchestra 吹奏楽ワークショップ」については、生徒からは「コロナ禍で部活動の活動が出来ず、基本的な楽器の扱い方から演奏方法まで、全く教えられないままだったので、大変ためになった。悩みが解決できた。」などの声が多く寄せられ、大好評だった。プロからの確かなアドバイスをもらえたことは、彼らの演奏活動の励みになり、「教わったことを仲間や後輩へ伝えていきたい」という感想をいただいた。非常に意義のあるワークショップとなった。



また「高橋多佳子のピアノ・レッスン」についても、参加者だけではなく見学していた保護者やピアノ指導者からも「貴重な体験だった」「これからもピアノを頑張りたい」という受講者からの言葉が寄せられた。

ピアノ演奏を続けることに希望を与えられる機会になったことがうかがえた。

【普及啓発事業】については、ほとんどの目標を達成できた。参加者の満足度も非常に高く、芸術文化の裾野を広げる活動が継続し、更に発展しながら続けられている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【人材養成事業】【普及啓発事業】共に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止または延期を余儀なくされたため、当初の計画通りには進まなかったものが多い。

特に【人材養成事業】の「演劇×自分史」は、市民参加型公演で、ワークショップを積み重ねるものであるが、参加者同士の接触や発声が避けられない演劇という特性上、集まること自体に感染リスクが高まるとして、実施が出来なかった。感染状況が落ち着いてきたから計画しようとする、また感染拡大し立ち消えるという状況で、新型コロナウイルスの感染拡大の波に翻弄され続けた。結果的に2年連続の事業中止となったが、令和4年度こそリベンジを行いたい。

【普及啓発事業】の「かすがいどこでもアート・ドア」も、感染状況を見ながら延期先を設定することになったのだが、結果同じような時期に集中してしまい、職員の負担が大きくなってしまった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

実施できた事業については、ほぼ当初の計画通りに進んだ。また、事業費についても適切な支出であると考えている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【普及啓発事業】の「昼コン&夜コン」は、複合文化施設である文化フォーラム春日井のエントランス空間「交流アトリウム」で行うコンサートであるが、その大きな魅力が“音楽との偶然の出会い”である。しかし、不特定多数の方が毎回 200 人以上来場する無料のコンサートを開催するハードルは非常に高いため、感染防止対策をしっかりと行ってコンサートを実施した。

舞台からの距離を取り、客席の間隔を空け、入口口を一カ所にし、検温・消毒を行った。またコンサート前に毎回、職員が感染対策の説明を行った。そのような対策により、安心して音楽を楽しめる、と来場者からは非常に好意的に受け止められ、寄付金は昨年度と同様に 28 万円を超える金額をいただく結果を出した。

市民が芸術文化に触れる機会を無くすことなく、地域の文化拠点としての機能をしっかりと果たした事業である。



また、「生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会」は、当財団が制作し、全国へ発信している事業である。今回のピアノ版は、上田市交流芸術文化センター（サンドミュージゼ）との協働で作ったもので、今まで全国で 18 回公演を行っている。その全国で行った成果を、春日井市民に発表する意味合いもあった。また、会場の春日井市東部市民センターでは今年度から新たにスタインウェイピアノが導入された。そのピアノのお披露目も兼ねた公演であった。

ショパン国際コンクール入賞者である高橋多佳子さんの弾くピアノの美しい音色と、漫画とのコラボレーションに、来場者の満足度は非常に高いものとなり、当財団オリジナル企画として、多くの市民に認知されることとなった。



自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【人材養成事業】の「Osaka Shion Wind Orchestra 吹奏楽ワークショップ」について、春日井市は吹奏楽の盛んな土地であり、市内の8つの高校のうち7つに吹奏楽部がある。プロの指導によって、彼らの楽器への知識と音楽への熱意が高まったと感じた。

【普及啓発事業】の「かすがいどこでもアート・ドア」は地域の人々にとって、非常に待ち望まれている活動である。特に高齢者施設や地域の老人会での出張演奏は大変に喜ばれ、日常に彩りを与えている。派遣されるアーティストは、ほとんどが春日井市在住であり、地元へ貢献できることに喜びを感じている。

【人材養成事業】の「若手音楽家支援事業」も「かすがいどこでもアート・ドア」でのアウトリーチ活動を行っている。派遣先のニーズにどうやって応えるか、試行錯誤しながら、演奏やパフォーマンスのスキルを磨いており、その活動を知って自分たちも同じように活動したい、という若手アーティストからの問合せも増えてきた。また、学校の教育現場に演奏家が入っていく活動も制作し始めており、今後に向け、芸術文化振興がますます発展していく可能性が出てきた1年となった。

vol.176 令和3年9月・10月合併号

発行所
中日新聞春日井宮町販売店
(有)近藤新聞店

よ～たうん

春日井地区
学習等供用施設で

ひまわりサロン

毎月第1水曜日 参加無料

落語で笑ってゲームを楽しんで

～65歳以上の方
気楽にご参加ください～

春日井地区社会福祉協議会
高齢者サロン事業

入館前に受付で、消毒と検温をして水分補給用のお茶を配る役員さんたち

「笑いを天国まで届けるように」と、一年に150か所ほど県内外を飛び回る、春日井在住で社会人落語家の若誠亭笑天さん。「落語はためになる話ではないんです」など、笑天さんのオチのたびに参加者は、声を出して笑っていました

この日は、春日井で活動する実演芸術家の派遣を運営する『かすがいどこでもアート・ドア』（かすがい市民文化財団）の「楽語の会」から、春日井在住で社会人落語家の若誠亭笑天さんが公演。

参加者から拍手で迎えられ「人は笑えば笑うほど体が活性化されます。今日は大いに笑って」と、笑いを交えた体操から、落語の表現や楽しみ方の説明では、座布団の縫い目がない辺を必ずお客様の方を向くように置いて座る理由、舞台の上手（かみて）と下手（しもて）と登場人物についてや、扇子を箆に見立ててそばを食へる演技を披露。小話「ストレス」の紹介など、参加者は1時間たつぷりと、声を出して笑い楽しみました。後半は、お手玉を使ったゲーム「ポッチャ」と「引っ掛ける」で体を動かし、ワイワイと盛り上がり、誕生月の人を歌でお祝いし、手作り作品の展示コーナーやボトルシッポの紹介なども行いました。

参加した女性は「普段あまり落語は聞きませんが、初めて生で聞く落語はとても楽しくて良かったです」「このサロンに参加する様になって、面白い皆さんに刺激を受けて、今日は何を着ていこうかな？など、楽しみが増えました」といって嬉しそうに話していました。

同サロン代表の用皆サチエさんは「昨年からお申し込みいただいた『どこでもアート・ドア』の落語の派遣。やっと当選した6月2日が、緊急事態宣言発令により延期になり、今日無事に開催してみなさんと笑って過ごせて本当に良かったです」と満面の笑みで話していました。

※サロンでは協力員さんを募集しています。問合せ先 用皆さん TEL090(34880) 68060

お誕生日おめでとう
ありがとう

(上)「ハッピーバースデー♪」と今月のお誕生日の

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

①「キックオフ・ミーティング」による事業改善の仕組み

当財団は事業に着手する前に、事業担当者、広報担当者、技術担当者、プロデューサー（芸術面の責任者）、マネジャー（運営面の責任者）が一堂に会する「キックオフ・ミーティング」を事業毎に必ず開催している。このミーティングにより、事業の目的を全員で改めて確認した上で、達成目標及び達成レベル、ターゲットを明確にしている。これにより、事業を個人の力量や熱意のみに依存せず、組織力を活かして継続的な取り組みとなるよう工夫している。

このミーティングは新規事業だけでなく、継続事業においても毎年度実施し、とかくマンネリに陥りがちな継続事業の見直しを行い、多方面からの意見を集約することで事業の改善を行っている。令和3年度は「どこでもアート・ドア」の学校派遣について、教育課程や学習指導要領に沿った授業モデルのアウトリーチプログラムを試行し、次年度以降、学校派遣に特化した「スクール・アート・ドア」立上げの足掛かりとした。

また、このミーティングは、前回の反省や積み残した課題を共有し、PDCA サイクルを回す仕組みを多くの手間をかけることなく実現するのに有効である。協議内容は、管理職にも共有され、アウトカムやインパクトなど俯瞰的な視点から長期評価を行う上で役立っており、これを春日井市文化振興プランの進捗状況確認にも反映している。

②育児休業取得職員の経験を事業に活かす

令和3年3月末時点の育児休業取得中の当財団職員は5人在籍し、1度復帰し、第2子の育児のため再度休職中の職員が内4人いる。これら子育てを経験した職員が、その経験を活かして、子育て中の市民が求める事業やサービスを提案し実行に移している。令和3年度は「親子のためのはじめての音楽会」において、コロナ禍でも安心して親子で参加できる会場の設えや公演プログラムを工夫し実施した。

なお、育休代替職員は正規職員とほぼ同等の給与水準の嘱託職員を採用し対応することで、一時的な欠員による職員負担を軽減している。“子はかすがい、子育ては春日井”をキャッチフレーズに掲げる本市において、職員が子育てしながら働ける職場環境づくりに取り組んでいる。

③安定的な財源確保と市民の支援

春日井市文化振興基本条例には、財団の責務が明文化されており、文化政策を体現する専門集団として位置づけられている。市補助金の減少もなく、近年は市から財団への事業移管による人員増や事業費増が認められ、安定的な財源が確保できている。

特に「昼コン&夜コン」は、新型コロナウイルスにより公演回数は例年より少ないが、事業に対する寄附金等は、281,182円と昨年度に続き高水準となり、来場者1名にかかる市補助金（依存財源）は92円で、目安としている500円/名を大きく下回り、継続的に良好な事業運営ができている。コロナ禍中で文化芸術の必要性が叫ばれる中、多くの市民に事業の公共性が認められたと感じられた。

